

福音印刷ゆかりの 希少な聖書を公開

神戸・賀川記念館

『赤毛のアン』などの翻
訳家・村岡花子(一八九三

―一九六八)を主人公に
したNHK連続テレビ小説
「花子とアン」の放映に関
連し、明治、大正期に聖書
の印刷で知られた福音印刷
がスポットを浴びている。

賀川記念館(神戸市)は

開催中の特別展「花子とハ
ル展」(九月二日〜十月三
十一日)で、福音印刷の聖
書一八冊を展示し写真。同
印刷で製本された聖書は大
半が戦災や弾圧などで消失
しており、希少な所蔵品と
して公開されている。

同館はクリスチャンの社
会運動家・賀川豊彦(一八
八八―一九六〇)の業績を
紹介するミュージアム。豊
彦の妻、ハル(一八八八―



一九八二)が花子の遠戚に
あたることから、同展は企
画された。

福音印刷は村岡平吉(一
八五二―一九二二)が横浜
で創業。花子の夫である敬
三(一八八七―一九六三)
は平吉の三男であり、平吉
から同印刷の事業を引き継
ぐも、一九二三年の関東大

震災で会社は壊滅した。

一方、敬三とハルが従姉
弟であることは知る人ぞ知
る。ハルは女工として同印
刷神戸工場で働き、讚美歌
の指導で同工場を訪れた豊
彦と出会う。花子もハルも
福音印刷とゆかりが深く、
特別展では激動の時代を生
き抜いた二人の女性の半生
を比較しながら観賞できる
内容となっている。